

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童センター		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 19,687人(前年度比 143.1%) 令和3年度 13,760人 令和2年度 11,219人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 32,926千円 (千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童センター運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、中学生の日常的な来館が見られ館内装飾や行事の企画運営等、自主的な活動への支援を行っている。これらの活動を通して自主性や社会性を育むとともに地域の様々な世代の方との交流の場として地域活性の一翼を担っている。	20/19

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>子どもたちが自ら考え行動する力を大切にすること、また、将監市民センター、「みんなのサロンふれ・ミー」との複合施設としての利用開始に伴う地域のニーズに、子どもたちがかわかることを実践課題としました。</p> <p>児童健全育成事業では、高学年児童や中高生が児童センターを拠点に、自発的な活動を促す「児童センター活躍隊」を発足しました。児童センターまつりには、自ら企画した遊びのコーナーを出店しました。近隣中学校2校の生徒もボランティアとして活動し、子どもたちの力を合わせた活動を地域へ向けて発信できました。</p> <p>子育て家庭支援事業では、乳幼児親子が日常的に利用しやすい環境を整えたほか、年齢毎や異年齢親子対象の行事、読み聞かせや保護者のリフレッシュ等に取り組みました。将監児童館、将監西児童館との3館連携事業「ドキドキタイム」では、将監地区全体を視野に入れ、七夕飾り制作やハロウィン行事、音楽会を開催し、地域一体となり子育て支援や異年齢交流を推し進めました。</p> <p>地域交流推進事業では、複合施設の中で子どもたちが地域の一員として活動できる場をつくるため、「みんなの将監プロジェクト」を実施しました。「活躍隊」の中学生が手形アートを作成したほか、テーブルゲーム等とおして小学生との交流を深めました。小学生が作成した七夕飾りは「みんなのふれ・ミー」にも展示しました。また、図書室の新しい利用方法を模索し、地域の方々が読み聞かせや環境作りを行うようになりました。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、「お楽しみ会」「大掃除」で「活躍隊」の中学生の協力で、児童センターにまつわるゲーム大会を行い、異学年交流を深めました。また、館庭や隣接する将監ふれあい公園で、職員が関わりながら遊ぶことで、子どもたちが自主的に集団遊びをできるようにしました。</p> <p>今後も地域とともに子どもの自立する力を育むための取り組みを進めてまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、昨年度より中学性の自由来館の増加が見られた。受験を控えた中学生が運動で気分転換を図り小学生と遊びを通して交流したり、少数ではあるが高校生の利用もあった。自由来館で訪れた中学生が自主的に館内の装飾や児童センターまつりのコーナー設営をしたり中学生ボランティアと児童クラブの長期休みの行事に携わる等、児童館事業を支える大きな力となっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、各館の特色を生かした内容で近隣の児童館と連携し地域一体となって子どもと子育て家庭の支援を継続的に行っている。また屋内外に遊びの場を設定して乳幼児親子が安心して自由に遊べる環境を整えており来館者増加に繋がった。</p> <p>地域交流推進事業においては、「みんなの将監」プロジェクトにおける年間を通した取り組みにより乳幼児から高齢者を繋ぎ地域交流の拠点としての役割りを果たした。昨年度の地域一丸のアート活動による成功体験を得た小学生、中学生が地域の方々との交流を通して地域の一員としての自覚が芽生え、子ども達の地域に向けた取り組みに繋がっている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、館庭・近隣公園での外遊びで心身の健康増進に努めている。また公園には地域の方が訪れ日常的に顔の見える交流が図られている中で、子ども達が自主的にポスターを作成し公園のごみを減らす取り組みを行った。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課